

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度(評価) |             |
|---------|-------------|
| A       | 十分達成できている   |
| B       | おおむね達成できている |
| C       | やや不十分である    |
| D       | 不十分である      |

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 伊万里市立立花小学校 |
|-----|------------|

|                  |  |
|------------------|--|
| 1 前年度<br>評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>全項目とも意識的に取り組み、B以上を得た。保護者アンケートでは、学校教育活動全般に肯定的な評価と、一定の理解をいただいた。コミュニティ・スクールに移行していくこともあり、更に保護者・地域との連携・協働を図り、「地域とともにある学校」につなげていく。</li> <li>「英語教育」研究指定を受け、研究と授業実践に取り組む中で、成果を上げることができた。今年度は研究教科を「国語」とし、授業の実践研究を進めていく。</li> <li>県学習状況調査等の結果を分析し、学力向上の取組に力を入れていく必要がある。</li> <li>コロナ禍での学校行事や授業公開等の在り方について、保護者や地域の理解を得ながら、充実させていく必要がある。</li> </ul> |
|------------------|--|

|          |                |
|----------|----------------|
| 2 学校教育目標 | たくましく心豊かな児童の育成 |
|----------|----------------|

|            |  |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和のとれた児童の育成に努める。</li> <li>感謝の気持ちを大切に、楽しく学び合い、高め合う校風を醸成し、特色ある学校を目指す。</li> <li>各主任・部長等を核としてチームとしての機能を高め、協働意識を高く持ち、全職員一致協力のもと課題に対処する。</li> </ol> |
|------------|--|

| 4 重点取組内容・成果指標 | 5 最終評価 | 主な担当者 |
|---------------|--------|-------|
|---------------|--------|-------|

| (1) 共通評価項目 |  |  |   | 最終評価 |         | 主な担当者  |    |  |                                 |
|------------|--|--|---|------|---------|--|----|--|---------------------------------|
| 重点取組       |  |  | 具体的取組   |      | 学校関係者評価 |  |    |  |                                 |
| 評価項目       | 取組内容   | 成果指標<br>(数値目標)   | 達成度(評価)   |      | 実施結果    |  | 評価 | 意見や提言  |                                 |
| ●学力の向上     | ●全職員による共通理解と共通実践   | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上   | ・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。  |      | B       | ・設定したマイプランを意識した取組を年間を通して実施し、年度末には振り返りをして、課題や対策を明らかにできた。<br>・マイプランの成果指標を達成した教師がほとんどであった。  | B  | ・先生方が全員参加の分かりやすい授業を目指していることが伝わってきた。  | ・学力向上対策コーディネーター<br>・研究主任        |
|            | ○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践  | ○学習状況調査の正答率(対県比)を前年度より0.05ポイント上昇させる。<br>○「自分の考えをわかりやすく書くこと」「自分の考えを正しく伝えること」「友達の考えをしっかりと聞くこと」が「できた」と答える児童の割合を80%以上にする。<br>○教師アンケートで『読書指導』『音読指導』や『思考力問題の実施』に取り組むことが「できた」と答える教師の割合を100%にする。 | ・児童の学ぶ意欲に基づく立花スタイルの定着を進め、学びの習慣の確立を目指す。<br>・児童が学び合う場を設定し、自分の考えを的確に表現したり、友達の考えを聞いたりして、理解を深めることのできる児童を増やす。 |      | B       | ・「書くこと」については80%、「伝えること」については75%、「聞くこと」については95%の児童が「できた」と回答している。成果指標1については、おおむね目標を達成できたと考ええる。<br>成果指標2の教師の「音読指導」「読書指導」については、どちらも80%以上が「できた」と回答している。思考力問題の実施については90%以上の教師が「効果があった」としている。<br>成果指標3の「宿題の提出」と「やり直しの徹底」については、「計画的に実施できた」が70%だった。学力の向上のためにはさらに努 | B  | ・授業参観の様子から、すべての学年で児童が真面目に授業を受けている様子が見られた。先生方の手立ての工夫がそのような姿につながっていると感じた。            | ・学力向上対策コーディネーター<br>・研究主任        |
|            | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○自分を大切に、向上心と思いやりの気持ちをもって行動できる児童80%以上   | ・「友達のいいところさがし」を実施する。<br>・伊万里市「心の教育3セット」の活用を図る。  |      | A       | ・「思いやりの気持ちをもって行動できた」と肯定的に回答した児童が93%であった。<br>・年2回「がばいシート」を活用し、児童が学級のことや友達のことをどのように感じているのか把握した。また、教員間で共有したりして児童の豊かな心を身に付ける指導に生かした。<br>・道徳教育推進教師より継続して道徳だよりが発行され、指導方法や授業改善についてなどを全職員で共有した。  | B  | ・植物を傷つけているという話を聞いている。<br>・男子5~6人でカマキリを足で蹴っている様子を見かけた。注意をしたが、反応がなく、心を育てることの大切さを感じた。 | 道徳教育推進教師<br>人権・同和教育担当者<br>各学年主任 |

|                    |                                |  |   |   |   |   |   |                                   |
|--------------------|--------------------------------|--|---|---|---|---|---|-----------------------------------|
| ●心の教育              | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実            | ○いじめ防止等(いじめの定義理解、いじめ防止のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答する教員90%以上 | ・毎月末の「月のころ」記入、年2回のアンケート実施で情報を得やすくする。<br>・いじめ対応についての研修・会議を学期に1回以上行う。 | B | ・「月のころ」で、早期発見・対応ができている。また、アンケートに「組織的に対応できている」と答えた職員も96%に増加した。「月のころ」の内容については、他校のものも参考に、来年度は更に良いものに変えて取り組みたい。<br>・研修会については、「いじめ」に特化したものではなかったため、来年度は年度当初に計画する内容のものを実施できるよう留意しておきたい。いじめに関する会議は、中間評価と同様であった。  | A | ・登校中の悪ふざけは減っており、いじめにつながる様子は見られなくなっている。異なる学年の児童同士で仲良く登校している様子が見られ、とてもほほえましい。<br>・問題行動が起こった場合に、迅速に対応していただいております。    | (主)生徒指導主事<br>(副)各学年主任             |
|                    | ◎夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 | ◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80%以上                           | ・全ての教科や学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。                          | B | ・キャリアパスポートを活用し、特に振り返りを大切にしながら、目標に向かう気持ちを高めるようにした。<br>・「夢や目標に向かって努力している」と回答した児童が90%と、前年度より5%低下した。」   | B | ・学校教育の中で、児童に常に目標をもたせながら活動していると聞いている。  | (主)教務主任<br>(副)各教科主任               |
| ●健康・体づくり           | ●安全に関する資質・能力の育成                | ●児童の交通事故を0(ゼロ)にする。   | ・交通教室を通して、児童の危機予測や危機回避の意識を高める。<br>・子ども見守り隊、地区交通対策協議会との連携を密にする。      | B | ・大きな交通事故などは無かったが、例えば道路の横断や自転車のマナーなど、放送で注意を呼びかけることがあった。一番多かった指導は、「公園での遊び方」についてだった。<br>・班登校が無くなり、通学路について数度指導することがあった。<br>・外部の方々から不審者情報を受け取ることがあった。その都度、学校用のメールや放送によって安全な登下校について指導を行うことができた。<br>・警察の方々や、子ども見守り隊の方々、中学校の生徒指導担当の方と一緒にパトロールすることで、様々な情報を交換することができ、子供の指導に生かすことができた。 | B | ・班登校ではないので、家が近くの児童同士と一緒に登校してもらうように地域でも呼びかけている。<br>・安全を考慮し、歩車分離交差点になっているが、赤信号で車が交差点内に侵入してくるケースがあり、今後も十分な見守りが必要である。 | 保健主事<br>栄養教諭<br>学校栄養職員<br>食育推進担当者 |
|                    | ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成           | ●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上                                      | ・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。<br>・食育だよりの発行をする。                            | B | ・どの学年においても食の重要性に関する指導ができ、好き嫌いせず食べなければいけない理由を理解させることができ、給食の残菜も減少した。  | A | ・「食育だより」が定期的に発行されており、食育の大切さへの意識の高まりを感じている。今後も、その重要性について情報発信をしていきたい。   | 栄養教諭<br>学校栄養職員<br>食育推進担当者         |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減           | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。                                  | ・定時退勤日の確実な実施をする。<br>・在校等時間の正確な記録と把握をする。                             | B | ・毎週金曜日には、職員室前面ホワイトボードに定時退勤のプレートを掲示したことで、少しずつ意識できるようになってきた。<br>・毎月全員の残業時間を確認し、残業時間が多い職員に、一緒に退勤するよう声掛けを行った。   | B | ・先生方も心身共に健康な状態で児童と向き合ってもらいたい。   | 管理職                               |
|                    | ○学校行事や校務分掌の見直し                 | ○学校行事や校務を見直したり、改革しようとしたりした教員90%以上                              | ・各分掌間の連携及び情報共有を図る。<br>・校務サーバー上のフォルダ構成の工夫と整理をする。                     | B | ・学校行事の見直しをすることで、精選するだけでなく、児童や保護者にとって必要な行事かどうかを改めて考えることができた。<br>・校務サーバー上のデータの共有やTeamsでの動画配信やデータのやり取りをすることで、資料作成等の時間削減ができた。   | B | ・学校行事については、育友会と連携し、コロナ禍の中でもできることに取り組んでもらっている。   | 教務                                |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |                    |                                 |                                   |             |  |         | 主な担当者                                   |          |
|----------------------|--------------------|---------------------------------|-----------------------------------|-------------|--|---------|---|----------|
| 重点取組                 |                    |                                 | 具体的取組                             | 最終評価        |  | 学校関係者評価 |   |          |
| 評価項目                 | 重点取組内容             | 成果指標<br>(数値目標)                  |                                   | 達成度<br>(評価) | 実施結果   | 評価      |   | 意見や提言    |
| ○個に応じた特別支援教育の推進      | ○教員の専門性と意識の向上      | ○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上        | ・特別支援に関する研修会の実施<br>・ケース会議の開催、情報共有 | B           | ・研修会では事務所の松園先生に講話をして頂き、配慮が必要な児童の理解について学びを深めることができた。<br>・気になる子については、連絡会のときに情報共有をし、必要に応じてコーディネーターと連携して対応した。                      | B       | ・授業参観において、特別支援学級での個々の実態に応じた手立てが素晴らしかった。 | 特別支援教育担当 |
| ○教職員の資質向上            | ○国語科の授業実践と研究成果のまとめ | ○国語科の教材研究、授業実践に意欲的に取り組んだ教員90%以上 | ・国語科の指導と評価の在り方について全職員で研修を深める。     | B           | ・授業実践、授業研究会を通して、国語科の読み取りの力をつけるための手立てについて全職員で話し合うことができた。<br>・1年間の研究ではあったが、年度終わりには今年度の研究のまとめを集約し、研究集録を製作した。今後の国語教育への一助となるものができた。 | B       | ・今後も、どの教科においても指導力向上に努めてほしい。             | 研究主任     |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

|                            |   |
|----------------------------|---|
| <p>5 総合評価・<br/>次年度への展望</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全項目とも意識的に取り組み、B以上を得た。保護者アンケートでも、昨年度に続き、学校教育活動全般に肯定的な評価と、一定の理解をいただいた。更に保護者・地域との連携・協働を図り、「地域とともにある学校」につなげていく。</li> <li>・県学習状況調査等の結果を更に詳細に分析し、具体的な手立てを模索する必要がある。さらに、全職員の共通理解の基、共通実践、継続した取り組みを行っていく必要がある。</li> <li>・コロナ禍で見直した行事の精選を契機として、学校の教育活動や教職員の業務全体を成果と課題を踏まえて、更に見直し・充実させていく必要がある。</li> </ul> |
|----------------------------|---|